

## ARG 会議(2010 年 11 月)出席報告

(社)日本証券アナリスト協会  
理事・教育第二企画部長  
金子 誠一

11 月 2 日にロンドンで開催された国際会計基準審議会(IASB)の ARG 会議\*について概要を下記のとおり報告します。

\*IASB と世界のアナリスト代表(Analyst Representative Group) との会議。第 1 回合  
合は 2003 年秋。当協会は 2004 年 2 月の第 2 回会議から出席。会議は年 3 回、IFRS-AC  
会議の前後にロンドンで丸 1 日かけて行われる。日米欧のアナリスト 10 名前後、IASB  
の理事 5 名前後、スタッフ数名出席。当初はトゥイーディー議長の私的アドバイザー  
会議の色彩が強かったが、IASB の会員向けニュースレター(Insight, July, 2005)で紹介  
され、2007 年 6 月の会議からは公開(傍聴可)となっており、公的な性格を強めている。

### 記

#### 1. 出席者

IASB 理事 : David Tweedie, Stephen Cooper, Philippe Danjou, Jan Engstrom,  
Prabhakar Kalavacherla, Patricia McConnell, Darrel Scott

Analysts : Blair Carey (Abacus, 加), Neri Bukspan (S&P, 米),  
Sarah Deans (Citigroup, 英), Christian Dreyer (年金コンサル, スイス),  
Jane Fuller (コンサル, 英), Jacque de Greling (CDC, 仏),  
Sue Harding (S&P, 英), Dennis Jullens (UBS, 英),  
Sei-Ichi Kaneko (SAAJ, 日), Vincent Papa (CFA Institute, 英),  
Jed Wringley (Fidelity, 英)

#### 2. 要旨

今回の会議はヘッジ会計、リース、保険、金融商品(減損)という現在公開中または最終基準化中のプロジェクトのうち IASB が悩んでいるテクニカルな論点についての議論が中心。最後に、来年 6 月に IASB の新議長に就任予定のハンス・フォーヘルフォルスト氏が参加、挨拶の後、質問に応じた。フォーヘルフォルスト氏はオランダでいくつかの閣僚ポストを歴任した政治家。現在はオランダの証券市場規制当局である金融市場庁長官、IOSCO(証券監督者国際機構)専門委員会議長、IFRS 財団のモニタリング・ボード議長を務める。会計の専門家ではないが、歴戦の政治家らしく極めて好感の持てる人物との印象を持った。

### 3. 議事一覧

番号	日時	議事
(1)	2日 9:00-10:00	運営問題（非公開）
(2)	同 10:10-11:10	作業計画
(3)	同 11:10-11:55	ヘッジ会計
(4)	同 11:55-12:50	リース
(5)	同 13:20-14:00	保険
(6)	同 14:00-15:00	金融商品（減損）
(7)	同 15:07-15:40	作業計画
(8)	同 15:40-16:10	新議長紹介

\*会議資料は以下から入手できる。

<http://www.ifrs.org/Meetings/Meeting+of+IASB+representatives+with+the+Analyst+Representative+Group+November+2010.htm>

### 4. 議事概要

上記の番号に従い、報告者(金子)の発言を中心に議事概要を報告する。

#### (1) 運営問題（非公開）

定款的な文書を設ける方向で内容、特にメンバーの選定方法について議論した。今後、メールにて詳細を詰める予定。

#### (2) 作業計画

トゥイーディー議長より、来年6月までの米国とのMoU項目開発を最優先していること、保険はMoUには含まれていないが、来年6月に16人のIASB理事中、4名が新任者になるのでそれまでに仕上げたい、との説明あり。

#### (3) ヘッジ会計

IASBは10月末にヘッジ会計に関する会計基準の検討を終え、年内に公開草案発出、来年6月までの基準化を目指している。

公開草案の特徴は、グループヘッジを認めたこと、フェアバリューヘッジにおいては、ヘッジ対象・ヘッジ手段ともに価格変動をOCI(その他包括利益)で認識(現行は共に純損益で認識)、ヘッジが効かなかった部分のみ純損益で認識すること。公開草案の提案は概ね好意的に受け止められていた。

なお、公開草案ではOCI評価の株式(わが国の持合い株)についてはヘッジ対象として認められない。報告者は、OCI評価の株式についてもフェアバリューヘッジと同様、ヘッジ手段をOCI評価とすることを認めるべきではないか、と質問したところ、スタッフから①そもそも株式のOCI評価は選択制、②OCI株式は売却した場合もリサイクルしない(売却損益を純損益で認識しない)ので、ヘッジの非有効部分を純損益で認識するという公開草案の考えとマッチしない、③ヘッジ会計をあまり複雑にたくない、との回答あり。

#### (4) リース

IASBは本年8月にリースの公開草案を公表、12月15日までコメントを募集している。公開草案は借り手については、オペレーティング・リースとファイナンス・リースの区別を無くし、全てのリースをオンバランス化すると提案しているが、貸し手については現行のオペレーティング・リースとファイナンス・リースの区分に近い①履行義務モデル、②認識の中止モデルを併用する提案をしている。

貸し手について2モデルを併用するのは複雑であり、借り手の処理との対称性に欠けるという批判があるため、どちらかへの統一について意見を求められた。単純化のために統一するほうが良いというのが大方の意見だったが、具体的な例(①ハーツによる1週間の車のリース、②ボーイングによるB737(耐用年数25年間)の3年リース、③ボーイングによる同じ航空機の20年リース、④パークレイ銀行による同じ航空機の20年リース、⑤不動産会社によるショッピングセンター内店舗の5年リース)になると判断が難しく、どちらが良いか結論は出なかった。

#### (5) 保険

IASBは保険については本年7月に公開草案を公表、11月末までコメントを求めている。この中で、長期保険に付き、有配当契約(participating policy、変額保険などもここに含まれる)の負債はこれにマッチングする資産の期待収益率で割り引くが、無配当契約(non-participating policy)は無リスク利子率+ $\alpha$ で割り引くことが提案されており、2種の割引率を用いることの是非が問われた。報告者以外は公開草案の提案に同意、以下のやりとりがあった。

報告者：無配当契約についても資産が分離勘定で管理されている場合は、保険負債を期待収益率で割り引くべきである。資産負債のマッチングを図るのは保険事業の基本である。また、日本の有配当契約は配当の額、時期は保険会社の裁量に任されており、無配当保険と大きな違いがない。

英国のアナリスト：それでは、無リスク利子率で割り引く確定給付年金の処理と矛盾が生じる。

報告者：年金についても期待収益率を用いるべきだと考えている。期待収益率は実際の運用資産に裏付けられた数字である。運用資産内容を開示すれば妥当な収益率かどうか判断できる。期待収益率はこの意味で統計学的な期待値であり、IASBは金融商品減損の期待損失モデル等で期待値を多用しているのに年金の割引率に期待値を用いない方が矛盾している。

クーパーIASB理事：減損における期待値と割引率における期待値では意味が違う。

#### (6) 金融商品(減損)

金融商品(減損)はすでにコメントを締め切り、来年6月までの基準化に向けて最終調整中である。公開草案は、期待損失モデルに基づき、融資の実行年度別に減損を管理し、減損実績を開示するという意欲的な内容になっていた。これに対し、IASBが金融界の専門家から組織したExpert Advisory Panel(EAP)から、実際には現時点で保有しているポートフォリオ(open portfolio)に基づきリスク管理しており、融資の実行年度別の管理は行っておら

ず、システム変更には巨額の費用がかかるというクレームがついた。また、実務では good loan、bad loan を分別しているので前者には期待損失モデルを適用しても、後者には発生損失モデルを適用するのが合理的という意見も出ている。次のやりとりがあった。

報告者：EAP と最初に話すべきではなかったか。公開草案は予想損失モデルに基づき、vintage table、loss triangle table といった意欲的な開示を含んでおり歓迎していた。モデルを断念したと聞いて大いに失望している。Open portfolio を認めることにより、公開草案が提案していた一部の情報は開示不能となるが、代替情報を出すようにしてほしい。

スタッフ：予想損失モデルを完全に断念したわけではなく、最終的には1月のBoardで決める。時間の制約もあり、新たなモデルを作るのではなく、提案モデルの改善で対応したい。

クーパー理事：最初に意見を聞けと言われるが、具体的な提案をしないと意見も聞けないところに難しさがある。

フランスのアナリスト：開示の形式も大事だが、項目の詳細さも大事なので留意してほしい。

## (7) 作業計画

IASB スタッフから、現時点での作業計画について説明あり。

## (8) 新議長紹介

トゥイーディー議長から、新議長はFSB(Financial Stability Board：各国金融監督者の集まり)の中で、会計基準設定の独立性を強く擁護した人で自分の後任として適任という紹介があった。

新議長からは次の話があった：米国の大学院を出て初めて就いた職業は銀行の融資アナリストで貸倒を見つけたこともある。オランダは福祉国家志向の弊害があったので、これを是正する政策の政党に属して改革に取り組んだ。最近では証券市場規制を担当しており、投資家保護はDNAに入っている。会計基準の統合性を守りたいと思っている。

次の質疑応答があった。

報告者：会計人はダークスーツを着た、退屈(dull)な人々と言われることがある。華やかな政治の世界から、dullな会計の世界に飛び込もうと思った理由は何か。

新議長：私もダークスーツを着ているが、dullな人間とは思っていないし、会計もdullな世界とは思わない。どこに行っても政治は付いてくる。これまでの経験を生かして、生き生きとして、高品質で、透明性の高い会計基準を作るために貢献したい。

以 上